

平成 19 年（2007 年）10 月 3 日大系タイムス報道

広域ごみ処理問題

住民投票要望と調査反対 白馬の連絡協が提出

北アルプス広域連合が白馬村飯森を建設候補地としたごみ処理施設建設計画の白紙撤回を求める同村の住民団体でつくる「白馬村新ごみ処理施設を考える連絡協議会」（宮田温巳会長）は 2 日までに、住民投票条例制定の要望書と候補地飯森の予備調査に反対する意見書など計 3 部を同連合同村に提出した。

同会のごみ問題に関して、住民合意の確認方法として住民投票が最も客観性が高いとし、前提として行政主導でなく賛否それぞれの考え方を客観的に示した意見の周知が必要とした。今後は実現に向け、直接請求も視野に入れている。

アンケート調査や、区長・団体代表者らの意見調整ではしがらみや主観で民意から離れた結論が出ると主張した。太田紘熙村長はこれまで、アンケートなどは選択肢としているが、住民投票を行う考えはないとしている。

同連合が候補地の飯森地区で実施を目指している地質の予備調査について、候補地は活断層が近く真っ先に除外すべきで、予備調査は費用の無駄遣いと指摘。より安全な候補地を探すべきとし、同地区への建設を前提とした調査に反対した。

同会の中村敬副会長は「飯森に絞っての調査は決めてしまうと同じこと。予備調査が回避につながる理由になるとの意見もあるが、強行される可能性もある。(1 次選定に上った) 18 か所のうち飯森だけというのは理屈が通らない」と話した。

同会が村や広域連合などに提出した署名について、太田村長が「本意ではない署名もあった」とする発言に抗議する文書も提出した。

平成 19 年（2007 年）10 月 12 日号 白馬新聞報道

住民投票条例求める

北ア連合ゴミ処理問題 新たな運動の展開へ

白馬村飯森地区に建設予定のゴミ処理場建設を巡り、反対運動を続けて来た白馬村新ごみ処理施設を考える会（宮田温巳会長）はこのほど牛越連合長と太田白馬村長に対し、①候補地飯森の予備調査反対、②住民投票条例制定の要望書に合わせ、このほど提出した署名簿提出に際し「太田村長から暴言」があったとして抗議した。

それによると建設用地における予備調査では、すでに活断層が飯森地区の直近にあることは文献でも明記しており、広城連合のごみ処理施設用地、選定調査報告書でも存在を認めているほか、信州大学副学長の小坂共栄教授の現地調査でもその存在が確認され「公共施設の建設候補地とし選ぶのは不適」としており、活断層付近に事故発生リスクを負う施設を建設することの愚は明白だとした上で ①予備調査の費用は高額で税金の無駄遣い、②活断層から 50m 離せば安全という説明は崩壊している ③飯森地区は真っ先に除外すべき場所一としている。

また、2つ目の要望では「住民投票条例の制定について」

それによると、直接的民主主義的な手法「住民投票制度は本村にないが、大きな影響のある事案に対し住民の意思を直接反映させることの出来る住民投票条例の制定は必要」だとした上で、その具体的方法には ①住民投票、②アンケート調査、③区長・関係団体の長・議員の意見などあるが、ごみ連協では①がベストと考え、住民投票制定を要望する。

次に太田村長の暴言についての抗議については、去る9月18日に庁内庁議室で同連協が署名簿を提出した折、太田村長は「この署名簿は信頼できない。私のところには、署名が強制されたもので自分の意思でしたものではない、などの連絡が入っている。私は住民一人ひとりに署名した際の経緯と意思をたしかめたい」というもの。

更に同会は太田村長の暴言を裏付ける証拠として、9月19日付け読売新聞の記事を取り上げ、「署名」は7月提出した分と合わせると、計約1万7600人分となり、うち村内分は約4000人に上るといふ。これに対し太田村長は「署名はしたけれども本意ではなかった」などという村民からの声が寄せられている。ほんとうに統一見解が取れた上での署名なのか。証拠を示して欲しい！と逆に宮田会長らを問い正す場面もあつた。(以下略)としている。

同会によれば「これを暴言」と判断した上で、①今回の署名簿は、たとえ村長が指摘するようなものが、その中に混ざっていたとしても、建設計画に反対する住民の意思を概ね正確に伝えているものと考ええる。

②村長が署名簿の欠点を取り上げて、署名簿全体を否定するのは、住民意思を踏みにじり、連協をおとしめんとする意図的な言論とみなさざるを得ない。

③そもそも署名した人の署名の意図は行政が調査するのは住民固有の権利である「自己決定権」や「意思表示権」「請願権」の行使に行政が介入することになり、はなはだ危険な行為である。住民の署名の動機を調査するのは、行政権の濫用であると考え一としている。

これに対し太田村長は①の環境影響調査については、民主的に話を進めて来ており、更に村民の納得を得るための調査は必要。

②の住民投票については「そこまで白馬村民は理解していないのか疑問」だとした上で「住民投票はこれから村づくりをする時に、いたずらに混乱を招くことになるがアンケート調査については選択肢の一つだ」との見解を明かにしている。